

水道 GX の取り組みについて

1. はじめに

恵庭市は、令和4年（2022年）6月22日、脱炭素社会の実現に向けて、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言しました。令和4年度第二回経営審議会では下水道 GX の取り組みについて、ご報告しましたが、水道事業においても温室効果ガス排出量の削減に向け、新たな取り組みを行うことからご報告いたします。

GX(グリーン転換) ~ 温室効果ガスの排出原因となっている化石燃料などから、太陽光発電などの再生可能なエネルギーに転換して、経済社会システム全体の変革を目指すこと

2. 取り組み状況

水道部が管理する市役所第2庁舎は、年間150,000kwhと比較的大規模な電力需要があることから、まずはこの電力を再生可能エネルギーに変換することで温室効果ガス排出量の削減を目指すことにしました。

当初は導入可能な再生エネルギーとして既存敷地内や建物への太陽光発電設備の導入可能性について検討しましたが、面積や構造上の制約から独自の発電設備では導入の効果は見込めないことが分かり、新電力として再生可能エネルギー（RE100）を選択することによりゼロカーボン化を図ります。

恵庭市内には現在1,000kwを超える再生可能エネルギー事業計画認定事業所が9事業所あり、太陽光発電施設が7施設、水力発電施設が2施設あります。そのうち天候等に左右されず年間を通して安定した電力供給が期待できる水力発電を選択し新電力に切り替えています。

<現在>



<新電力>



3. 開始時期

令和5年12月1日から新電力による運営を開始しています。